

## 最小限綱領について

マキシマリズムについての論文にかんする意見\*

\* ジノヴィエフのマキシマリズムについての論文にかんする意見。この論文は、雑誌『コムニスト』か、新聞『ソシアル・デモクラート』に発表することになっていたが、発表されなかった。

………主要なことは、「それ（最小限綱領）の諸要求の総和は………原則的に異なる社会制度への移行をもたらす」という根本的にまちがったあなたの考えにある（七ページ、第二段落その他）（同じく九ページ）。

これは、まったくまちがっている!! 最小限綱領の一定の要求（「その諸要求」）も、最小限綱領の要求の総和も、「原則的に異なる社会制度への移行」をもたらすものではない。そのように考えるのは、改良主義の立場に原則的に移行し、社会主義革命の立場を放棄することを意味する。

最小限綱領というのは、資本主義と原則的に両立することができ、資本主義の枠からはみ出ないような綱領のことである。

もしかしたら、あなたは、社会が社会主義に移れるだけ客観的に成熟しているばあいに、最小限綱領の諸要求の総和が実現されるならば、それは、社会主義をもたらすだろうと言いたかったのかもしれない？ しかし、これもそうではない。ただ、つぎのようにしか言えない。實際上、もっともありそうなことは、最小限綱領の大きな要求をめざして真剣に闘争すれば、つねに社会主義のための闘争は燃えあがるであろうということであり、われわれは、いずれにせよ、これをめざす、と。

さらに、パンネクーク+ラデックが忘れてしていること、つまり、帝国主義は、少数のきわめて富裕な民族が数億の従属諸民族を搾取することであるという点を、忘れてはならない。ここからして、従属民族にたいする支配を維持しながら、きわめて富裕な民族の内部できわめて完全な民主主義がおこなわれる可能性が出てくる。奴隷制を基盤とした古代ギリシアでそうであった。いま、ニュージーランドとイギリスの事情がそうである。

（こまかい点——八ページはよくない。これは、こういうふうに言うべきではない。たとえば、帝国主義と物価騰貴の時代には、改良だけではけって「パン」は手にはいらな

い。

八ページ——ポトレソフの非難にたいする防衛。防衛しないで、攻撃しなければなら

い。あなたは、ロシアにおける 1904 年の自由主義者のように、改良にとどまっている。）

一〇ページ—— 1905 年には、自由主義者は、改良にとどまっていた。われわれは、革命を要求し、宣伝し、準備する、等々した。ここで問題は、「具体性」にあるのではなく、あらゆる革命の基本原則（本質）にある。つまり、新しい階級が古い階級と交替し、「全権力」（die Macht）を獲得することである。

（一〇ページの末尾——あなたは、「革命」と言いたいのかもしよれないが、プロレタリア的「改良」が、おそろしく軽率に、不手際に問題にされている!! 「ロシアにおける 1904 年のように、もろもろの改良でなしに、一つの改良」というのは、大体こういったものである。）

——ページ全体はひどくまちがっている。八時間労働制にしても、「人民の武装」にしても、帝国主義は、社会主義革命に対抗するために、それをあたえるであろう。闘争が展開されるのは、まさにこれをめぐってではなく、一般に最小限綱領をめぐってではない。

帝国主義は、革命に対抗して「ブルイギン国会」をあたえ、改良をあたえるであろう。われわれは、革命に組みするだろう。

「現代のもっとも重要な問題」は、あなたがあげているようなものではなく、物価騰貴(一) + (二) 帝国主義戦争であろうし、現にそうである。

物価騰貴(トラストその他のもとでの)にたいしては、改良は無力である。ロシアにおける1904—1905年の専制にたいして無力であったのと同じように。

あなたは改良の問題を、また最小限綱領の問題も、民主主義の問題も、まちがって提起した。

# さしあたり(『保険問題』のことだし、小さな論文でもあるから) つぎのように対立を示すだけにとどめておいて、書き直すように、私はせつに忠告したい。つまり——ポトツフ氏よ、君は完全に**改良主義者**だ。君は「もろもろの改良」にとどまっている。君は、『もろもろの改良』でなく、「一つの改良』という「公式」の意義と意味、引用されているカウツキー+ヒルファディング+バウアーなどの声明の意義と意味を忘れてしまっている。『デーロ』は、思想的に完成した、**改良主義の機関紙**、ブルジョアの労働者党の機関紙である。

「三つの柱」は、改良のための闘争を革命になるまでに拡大したものであった。改良のための一つ一つの闘争を革命のための闘争に移し、転化させるというふうに、ツィンメルヴァルド左派の宣言でも問題が提起されている。

民族自決は、私の考えでは、一般に「もっとも重要なもの」と認めることはできない。この点で、あなたは、私がこれまでに言ってきたことの10倍も先に進んでいる。あなたがそのようにふるまえば、あなたは、私をあなたに対抗して——おお、なんと恐ろしいことか!——ブハーリンと結びつかせることになる!!!

さしあたり、この問題を見送り、論文を#のところのように書き換え——ビューローなどに送付するために、たとえば最小限綱領等々にたいする態度にかんするテーゼといったようなものをつくったほうがよくはないか?

# 「マクシマリズム」うんぬんの文句は、**革命家**(検閲を通すには「**改良主義の原則的な反対者**」)にたいする**改良主義者の攻撃**にほかならない。一般に、このような問題を検閲にひっかからないように論じるのは、とくにむずかしいことであり、**heikle sehr heikle Sache !!** [デリケートな、きわめてデリケートなことである!!]

注) ……は本文中の表記、……………は青山の略。

第41巻『マクシマリズムについての論文にかんする意見』P482~484

1916年12月7(20)日以後に執筆 手稿によって印刷

1962年に「レーニン全集」第5版、第30巻にはじめて発表